



発行：神戸大学大学院医学研究科小児科 こども急性疾患学部門

神戸こども初期急病センター



2011年 9月受診者数：1921人

訴え

(カッコ内は、その症状を主な訴えとして来院した患者数)

- 1. 発熱 : 1111人 (870人)
- 2. 咳 : 745人 (216人)
- 3. 鼻汁 : 504人 (27人)
- 4. 嘔吐 : 271人 (89人)
- 5. 発疹 : 201人 (146人)

疾患頻度

- 1. 急性上気道炎・咽頭炎: 699人
- 2. 感染性胃腸炎 : 189人
- 3. 気管支炎・肺炎 : 156人
- 4. 気管支喘息・喘息性気管支炎 : 221人
- 5. じんま疹 : 79人



今月のワンポイント！

10月に入り、過ごしやすい季節になりました。各地で運動会も行われ、まさに「スポーツの秋」といった感じです。神戸こども初期急病センターは HAT 神戸の海岸近くにありますが、海を見ながら歩くのは大変心地よいものです。心身ともに健康に過ごせるように、日ごろから心がけていきたいものです。

さて、9月の総受診者数は1921人で、8月と比べて減少傾向にあります。その中で受診理由として最も多かったのは発熱、鼻汁、咳嗽といった「かぜ症候群（急性上気道炎）」です。朝晩だんだんと寒くなってきましたので体調の管理にはどうぞご注意ください。

季節の変わり目はアレルギー性疾患が増える傾向があり、当センターにも気管支喘息、喘息性気管支炎の患者様が221人受診されました。さらに今年はRSウイルス、マイコプラズマといった咳をともなう感染症が例年よりも多いと報道されています。小さい赤ちゃんのひどい咳や、学童でも長引く発熱などは要注意です。特に36週未満の早期産児や心臓や肺に生まれつきの病気を持つ赤ちゃんは、RSウイルスにより重症化しやすいことが知られています。このような赤ちゃんを対象とした予防注射（シナジスといいます）もありますので、お心当たりの方はかかりつけの先生とよく相談しておいてください。

